

安全データシート

作成日 2016年6月28日

1. 製品及び会社情報

製品名	SF培地
会社名	極東製薬工業株式会社
住所	東京都中央区日本橋小舟町7番8号
担当部門	営業学術部
電話番号	03-5645-5664
FAX 番号	03-5645-5703
製品コード	02400
緊急連絡電話番号	03-5645-5664

2. 危険有害性の要約

GHS 分類は、「3. 組成、成分情報」、「11. 有害性情報」及び「12. 環境影響情報」に基づく。

GHS 分類

健康に対する有害性

- ・急性毒性(経口) : 区分2
- ・急性毒性(経皮) : 区分1
- ・急性毒性(吸入-ガス) : 分類対象外
- ・急性毒性(吸入-蒸気) : 分類できない
- ・急性毒性(吸入-粉塵・ミスト) : 分類できない
- ・皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 区分2
- ・眼に対する重篤な損傷性/刺激性 : 区分2A
- ・呼吸器感作性 : 分類できない
- ・皮膚感作性 : 分類できない
- ・生殖細胞変異原性 : 分類できない
- ・発がん性 : 分類できない
- ・生殖毒性 : 分類できない
- ・特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分2 (心臓血管系、中枢神経系、肺、全身毒性)
- ・特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分2 (心臓血管系、中枢神経系)

アジ化ナトリウム(区分2:肺)を1.1%含有する。

- ・吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

環境に対する有害性

- ・水生環境有害性(急性) : 区分3
- ・水生環境有害性(慢性) : 区分3
- ・オゾン層への有害性 : 分類できない

GHS ラベル要素



注意喚起語

危険

危険有害性情報

- ・飲み込んだり皮膚に接触すると生命に危険
- ・皮膚刺激
- ・強い眼刺激

注意書き	[安全対策]	・心臓血管系、中枢神経系、肺の障害、全身毒性のおそれ
		・長期にわたる、または反復ばく露による心臓血管系、中枢神経系の障害のおそれ
		・長期継続的影響により水生生物に有害
		・粉塵/ミストを吸入しないこと。
[応急措置]	・眼、皮膚、または衣類に付けないこと。	
	・取り扱い後は、手、顔、眼、口内等をよく洗うこと。	
	・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。	
	・環境への放出を避けること。	
	・保護手袋/保護衣/保護眼鏡を着用すること。	
	・皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。	
	・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。	
	・直ちに医師に連絡すること。	
	・以下のような時には、医師の診察/手当てを受けること。 気分が悪い時。皮膚刺激が生じた場合。眼の刺激が続く場合。	
	・口をすすぐこと。	
[保管]	なし	
	[廃棄]	・内容物及び容器を認可された廃棄物処理施設に廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区分	: 混合物
化学名又は一般名	: データなし

成分	化学特性 (化学式等)	CAS No.	濃度又は濃度 範囲(含有量)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
ペプトン	データなし	設定されていない	—	11-(4)-612
ブドウ糖	C ₆ H ₁₂ O ₆	50-99-7	—	8-46
リン酸水素二カリウム	K ₂ HPO ₄	7758-11-4	—	1-452
リン酸二水素カリウム	KH ₂ PO ₄	7778-77-0	—	1-452
塩化ナトリウム	NaCl	7647-14-5	—	1-236
アジ化ナトリウム(1)	NaN ₃	26628-22-8	1.1%	1-482
ブロムクレゾールパープル	C ₂₁ H ₁₆ Br ₂ O ₅ S	115-40-2	—	5-533
危険有害成分	: アジ化ナトリウム			

4. 応急措置

吸入した場合	: 新鮮な空気の所に移し、鼻をかみ、うがいをさせる。処置後異常を感じた場合は医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	: 多量の水で石鹼を用いてよく洗い流す。炎症を生じた場合は医師の手当てを受ける。
目に入った場合	: 15分以上水で洗浄する。瞼を広げ、眼をあらゆる方向に動かす。異常があれば医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	: 水でうがいをする。直ちに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

消火剤	: 粉末消火剤、水、炭酸ガス、砂等
-----	-------------------

使ってはならない消火剤	: データなし
火災時の特有危険有害性	: 消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
特有の消火方法	: 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火活動は、可能な限り風上から行う。
消火を行う者の保護	: 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	: 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したりしないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項	: 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	: 飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。こぼした場所は、ウエス、雑巾等で拭き取る又は大量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	: 特になし
局所排気・全体換気	: 特になし
注意事項	: 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散しないようにし、みだりに粉塵を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
安全取扱い注意事項	: 吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。

保管

技術的対策	: 施錠して保管すること。
適切な保管条件	: 吸湿しやすいので、密封し、光を避け室温で保管する。
混触禁止物質	: データなし
安全な容器包装材料	: ガラス、ポリエチレン

8. 暴露防止及び保護措置

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

設備対策	: 局所排気装置、取扱場所の近くに手洗い、洗眼設備を設置する。
管理濃度・作業環境評価基準	: データなし
許容濃度	ACGIH : (1): Ceiling: 0.29 mg/m ³ NaN ₃ Ceiling: 0.11 ppm Hydrazoic acid vapor

保護具

呼吸器の保護具	: 保護マスク
手の保護具	: 保護手袋
目の保護具	: 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	: 保護衣、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

外観	: うすい青～紫色を帯びた粉末
臭い	: 特有の臭い
pH	: 6.9～7.1(培地調製後)
融点／凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし

引火点	: データなし
自然発火温度	: データなし
燃焼性	: データなし
燃焼又は爆発範囲 上限・下限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重(相対密度)	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール／水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
その他安全情報	: なし

10. 安定性及び反応性

安定性	: データなし
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: データなし
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: データなし

11. 有害性情報

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

急性毒性

- (1): ・急性毒性(経口): ラット LD50=45mg/kg(DFGOTvol.20(2003))
・急性毒性(経皮): ウサギ LD50=20mg/kg(ACGIH(2001))

皮膚腐食性・刺激性

- (1): ウサギの皮膚に適用した試験の結果、適用4時間後に腐食性を示し、6匹中3匹が死亡したとの報告(DFGOTvol.20(2003))がある。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

- (1): 強い皮膚腐食性があることから、眼にも強い刺激性を有すると考えられる。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

: データなし

生殖細胞変異原性(変異原性)

: データなし

発がん性

- (1): ACGIHによりA4に分類されている[ACGIH-TLV(2005)]。なお、ラットを用いた2年間経口投与による試験で、用量依存的な体重増加抑制と高用量群における生存率の低下が見られたが、発がん性の証拠は見出されていない(NTPTR389(1991))。

生殖毒性

: データなし

特定標的臓器・全身毒性、単回暴露

- (1): 経口摂取による中毒事故で心臓の強い鼓動、気絶、心臓虚血を呈した5人の実験技術者の例(NTPTR.389(1991))、10~20gを摂取後、精神状態の変化、顕著なアシドーシス、心律動異常、心拍数低下、低血圧を招き死亡した化学者の例(NTPTR.389(1991))、極めて少量摂取した場合でも頻脈、過換気、低血圧を示した実験技術者の例(HSDB(2009))などの症例報告がある。また本物質の標的器官は心臓血管系であり、末梢血管の拡張を起し血圧低下を招くと記述されて
-

いる(DFGOTvol.20(2003))。上述のヒトの事例ではさらに症状として、めまい、気絶、精神状態の変化、非心臓性の肺水腫、代謝性アシドーシスが見られ、また、本物質を数グラム摂取した自殺例(ACGIH(2001))の所見として、肺水腫と脳水腫の記載もある。なお、動物試験では経口投与により、ラットで心拍数低下と全身痙攣(DFGOTvol.20(2003))、ウサギで血圧低下と心臓障害(PATY(5th.2001))が記録されている。

特定標的臓器・全身毒性、反復暴露

- (1): ラットの13週間反復経口ばく露試験の最高用量(20mg/kg/day)で臨床症状として嗜眠、努力呼吸、死亡、組織学的病変として大脳と視床に壊死が観察された(NTPTR389(1991))。さらに、2年間反復経口ばく露試験では最高用量(10mg/kg/day)で生存率の低下が見られ、この低下は試験物質ばく露に起因する脳の壊死と心血管虚脱が原因である述べられている(NTPTR389(1991))。また、上記のラット13週間経口ばく露試験の20mg/kg/dayでは、肺のうっ血、出血と水腫も観察されている。なお、イヌの反復経口ばく露試験(1?10mg/kg/day)でも運動失調が見られ、大脳の組織形態学的変化が報告されている(HSDB(2009))が、ヒトのばく露に関しては重大な有害影響の発生を伝える報告は特に見当たらない。

吸引性呼吸器有害性

: データなし

その他の情報

: なし

12. 環境影響情報

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

生態毒性

- (1): ・水生環境有害性(急性): 藻類(*Pseudokirchneriella subcapitata*)での96時間ErC50=348µg/L (AQUIRE,2010)
・水生環境有害性(慢性): 急性毒性が非常に強く、急速分解性がない(直接測定(HPLC)による分解度:1%(既存点検,2000))。

残留性/分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

オゾン層への有害性 : データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の条例に従い廃棄する。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。関連法規ならびに地方自治体の条例に従い廃棄する。

14. 輸送上の注意

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

国連番号 (1): UN1687

品名 (1): アジ化ナトリウム

国連分類 (1): 6.1

容器等級 (1): II

海洋汚染物質 (1): 該当

注意事項 : 輸送前に容器の破損、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷ぐずれの防止を確実に行う。直射日光を避ける。

15. 適用法令

消防法	:	・第5類自己反応性物質、金属のアジ化物(法第2条第7項危険物別表第1・第5類10・危険物政令第1条第3項)【1 金属のアジ化物】:アジ化ナトリウム
毒物及び劇物取締法	:	・毒物(指定令第1条)【1 アジ化ナトリウム及びこれを含有する製剤】
労働安全衛生法	:	・危険物・爆発性の物(施行令別表第1第1号)【1の4 アジ化ナトリウム】 ・名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9)【9 アジ化ナトリウム】 ・名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号・別表第9)【9 アジ化ナトリウム】
化学物質管理促進法 (PRTR法)	:	・第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) 【11 アジ化ナトリウム】

16. その他の情報

引用文献

- | | | |
|-------------------|-----------------------------------|------------------|
| 1) 和光純薬工業株式会社 | 安全データシート | |
| | (W01W0119-1109 JGHEJP、2014年7月18日) | |
| 2) 毒物劇物データハンドブック | 毒劇物安全性研究会編 | 薬務広報社 |
| 3) 危険物データブック | 東京消防庁 警防研究会編 | 丸善 |
| 4) ezCRIC 2016 | | 日本ケミカルデータベース株式会社 |
| 5) 化学物質総合情報提供システム | | 製品評価情報基盤機構 |
-

この SDS は基本的な取扱いについて記述したもので安全保証を意図して作られたものではありません。

また、危険・有害性の評価は現時点で入手できる資料、情報、データ等で作成しておりますが、全ての資料を網羅したわけではありませんので取扱いには十分注意して下さい。